

令和6年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和7年1月16日（木）午後4時～午後5時

2 場 所

刈谷市役所 301会議室

3 議 題

「教育大綱に求めること」

4 出 席 者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	金原 宏
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	石田 芳加
教育委員会 委員	鶴田 英孝
教育委員会 委員	浅井 優
教育委員会 委員	小川 耕示

5 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	竹谷 憲人
教育総務課長	石崎 伸一
教育総務課 課長補佐兼施設係長	近藤 真
教育総務課 総務係長	溝口 香織
学校教育課長	田中 仁
生涯学習推進監兼生涯学習課長	寺田 浩司
スポーツ振興監兼スポーツ課長	坂東 知道
企画財政部長	岡部 直樹
企画調整監兼企画政策課長	高橋 盟
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長	小原 崇照
企画政策課 経営管理係長	池田 陽一郎
企画政策課 主事（書記）	和田 芳明

6 傍 聴 人

なし

1 市長あいさつ

皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、教育委員会に引き続いての総合教育会議ということで、誠にありがとうございます。

年明けに薬師寺に参拝した際、住職が玄奘三蔵（げんじょうさんぞう）、いわゆる三蔵法師のお話をされました。猪八戒は「貪り」、孫悟空は「怒り」、沙悟浄は「妬み」という、仏教でいうところの三悪を克服して、天竺へお経を取りに行くというお話でした。これを聞いて、この3つの悪が完全に無くなってしまったら人間では無くなってしまうような気がしまして、本日は「教育大綱に求めること」がテーマですが、多少の欲があってバランスの取れた人を育てるのが重要なと思います。

ご存じのとおり刈谷市は4月1日に市制施行75周年を迎えます。eスポーツのイベントや音楽フェスなど、様々なイベントを用意させていただいております。小さいお子さん向けのイベントも企画していきたいと考えておりますので、ご期待いただければと思います。

後ほどご紹介させていただきますが、来年度は教育大綱の改定ということで、元サッカー日本代表監督の岡田武史氏のインタビュー記事も材料にさせていただきながら、お話をさせていただければと思います。今日はよろしくお願いします。

2 議題

「教育大綱に求めること」

・第2次教育大綱の各種施策の実施状況（資料1）

＜教育総務課長から資料1について説明＞

・意見交換

＜以下各意見要約＞

市長

事務局からの報告を踏まえまして、それぞれ皆様のご意見、ご感想、将来に向けてのお話も含めてお話をいただきたいと思います。まずは石田委員お願いいたします。

石田委員

いつも教育にご支援いただきありがとうございます。今回の議題が「教育大綱に求めること」であったため、改めて教育大綱を読ませていただいたのですが、基本的には大きな方向性はこのままで、引き続き進めていただきたいと思います。その上で教育大綱の「知」、「徳」、「体」、「礎」について深掘りしながら、自身の考えをお話しさせていただきます。

まず、「知」については、教育の効率性とDXの活用という方向性が、子どもたちの感性や内面、創造性を豊かにするための手段となるよう、引き続き努めていただけると幸いです。また、教育が数値で測れる成果だけでなく、見えない部分の成長をどう評価するかが今後の課題だと考えています。「徳」については、感謝や思いやりを具体的な行動で実感し、心の豊かさを維持していくことが大切だと感じています。各学校で実施

されている「ありがとうプロジェクト」は効果的だと思います。強要した感謝ではなく、自然に溢れてくる感謝を育んでいただき、感謝や思いやりに希薄な状態の子どもがいた場合には、気付いて、目を向けてもらえるとありがたいと思います。「体」については、子ども一人ひとりのライフスタイルによって違いがあると考えています。子どもたちが自身でどのように心身の健康を維持していくかサポートしていただき、学校ルールの中で収まらない場合には、寛大な学校力、教員力で子どもたちの心身のストレスの軽減に寄り添い、心身のコーディネートの一助になってもらえたら良いと思います。その温かみのある理解が、子どもたちの未来を豊かにするのだと考えます。「礎」について、教育大綱の文末に、子どもたちにとって必要なことは「他者を受け入れ、周囲の人と手を取り合いながら『共に生きていく』こと」とありますが、これは教育という視点だけでなく、人生において誰もが必要なことであると認識しています。各々ができることをする、補い合っていくということを実践し、刈谷の子どもたちを全力サポートしていける環境と良き雰囲気があるまちづくりを引き続きお願いしたいと思います。

最後に何点か大事だと考えていることをお話ししたいと思います。1つは子どもたちが本音を話せる場、自己成長できる空間づくり、雰囲気づくりが必要だと感じています。また、子ども自身が人生を考える時間を持つ「ゆとり」が必要だと考えています。それがあれば子どもたちは学びを止めず、面白さを感じると思います。疲労が溜まる前に、「休む」という提示をすることも、これからの時代あっても良いのではと考えます。心が崩れ落ちてから休むのではなく、その前に気付いていくことが大切かなと思います。また、不登校と言ってしまうと良いのかわかりませんが、様々な理由で学校から足が遠のいている子どもたちも多くいます。「学校は人生を楽しむ場である」という価値観が広がれば、良い意味で小さな意識改革が起きると考えています。この意識改革によって、学校は益々発展し、子どもたちにとって大切な場として存在し続けることを心から願っています。その子、その子にしかない貴重な価値を認めあえる世の中と刈谷市の教育現場づくりが進むことを願っております。

市長

ありがとうございました。それでは鶴田委員お願いいたします。

鶴田委員

現在の教育大綱は大変よく考えられたものであると考えております。「知」、「徳」、「体」の3つをバランスよく育てるということ、それを支えるための「礎」では、充実した教育環境の確保と学校・家庭・地域が連携して見守る。大変わかりやすく、納得しやすいものになっていると考えます。私としては大綱の基本的な部分についてはこのまま進めてほしいと思っています。実際に学校訪問させていただいても、各学校の先生方が教育大綱をよく理解し、教育を進めてくださっていることを実感しています。

教育というと、学力向上が着目されるが、それ以上に「何のために学ぶのか」、「どのように学ぶのか」ということを非常に重要視して教育されていると感じております。各

学校では、気付きを大切にする教材や子ども同士で学びあう仕掛けを積極的に用い、学ぶこと自体に興味を持ち、自分から学びを広げていけるように、人の考えを参考にしながら自分の考えを深めていけるように、導いてくださっていると感じました。私は町工場でものづくりに携わっておりますが、改善活動においては現状を調べ、問題点を明らかにし、解決策を見つけ、より良くしていくというステップを踏みます。学校でも「自分なりに考え、解法を形成していく」というステップを子どもたちに学ばせています。さらにすごいのは「その考えに満足せずより良い解法はないか探求していく」という教育にも取り組んでもらっている。この能力こそがものづくりでは非常に重要な考え方です。このような考え方や学びを当たり前でできる子どもたちを育てることは、子ども自身にも社会全体にも大切であろうと思います。教育大綱に求めることということですが、是非こういった点を取り入れてほしいというのが要望の一つです。また、付け加えるなら、この5年間で変わったことを反映することが必要だと思います。例えばDXですが、前回の大綱にあったプログラミング教育のみに留まらず、DXというのは日常のあらゆる分野で今後活用されていくため、新たな育成テーマとして据えても良いのではないかと考えます。刈谷市は、他市と比べても、教育現場のICT環境が非常に高いレベルだと感じますが、その活用は個人的にはバラツキがあるのではと感じる場面もあります。積極的にICTを活用する授業とそうでない授業がある。必要な時に必要な形でICTを活用するのが良いと考えますが、より積極的な活用を促すような視点があっても良いのではと思います。

最後に、教育大綱は学校教育分野だけではなく、地域振興、青少年育成、生涯学習、スポーツなどの分野の振興施策についても、共通している部分があるという考えを持っています。また、毎月の教育委員会で共有されている市内スポーツ施設、文化施設の稼働率は非常に高く、各学校で行われている「地域学校協働活動」への参加人数は素晴らしいものがあります。市民の自己実現、心身の健康、学校や地域でのつながり、社会貢献への意識は非常に高く、子ども、大人、全ての市民のウェルビーイングの実現を、教育・学びを通じて目指していくという視点も大綱にあっているのではと思います。もちろん大綱は、全ての分野を網羅して記載する必要はありませんが、地域の実情も考えながらご検討いただければと思います。

市長

ありがとうございました。それでは浅井委員お願いいたします。

浅井委員

これまで皆様も仰っていましたが、私も教育大綱の「知」、「徳」、「体」、「礎」を読み返しました。現在の教育大綱は非常にバランスよく網羅されていると思うため、骨格を大きく変える必要はないのかなと思います。「知」、「徳」、「体」、「礎」それぞれの目指す子どものイメージ像を育てるために、令和3年から取り組んできたことを振り返って、どれだけ効果があったのか、イメージ像にどれだけ近づいているのか、しっかり検

証して、継続するもの、微調整するもの、標準化された施策は取り上げないなど検討して、各種施策をブラッシュアップしながら新しいものを考えていってほしいと思います。

今回、各施策の振り返りの中で、結果の一つとして数値を出していただいたことで、視覚でもわかりやすいため良いと思いますが、今回の数値が市民意識調査に基づいているものが多くありますが「知」、「徳」、「体」、「礎」のイメージ像に近付くための施策に対する効果検証と市民意識調査の結果は≒（ニアリーイコール）となっていると感じます。例えば、「科学的な思考の育成」＝「数学が好きな児童生徒の割合」ではないという印象を持っています。先程、鶴田委員も仰っていましたが、社会課題の解決に向けて科学的な思考でアプローチできるか、ということをどういった数値で測るか、どういったアンケートで拾っていくかという点が大事になってくると思います。個人的には数値は重要なことだと考えておりますし、こういう数値がずっと欲しかったため、ありがたいと思うのですが、突き詰めて効果検証するのであれば、実施したことを掬い上げられるようなアンケートがあると、なお良いのかなと考えています。

大綱とは離れてしまうかもしれませんが、新たな施策を考えていくにあたり、施策を実行するのが現場の先生方であるということを意識し、先生方の工数対効果を精査して進めてほしいと思います。学校現場では人と人との温かさというものを重要視しがちですが、人じゃないと対応できないことは残しつつ、AIの時代と言われる中でドラステックにテクノロジーを取り入れていって、先生方に負担の少ない施策を検討していれば良いのかなと思います。年に一度、一年の振り返りとして、イメージ像にどれだけ近づいているか、施策に対する効果を報告していただけるとありがたいなと思います。

最後に、個人的にはありますが「徳」について、「他者への思いやりを育む」と「自身の感情を豊かに表現する」の両立が難しいと感じます。他者への思いやりを育むことが強くなってしまって、自分の思いを抑えてしまう。いわゆる、空気を読んで黙ってしまうのが現状なのかなと思います。一人ひとり価値観が違うことが前提で、考えが違うから好きとか嫌いに発展するのではなく、他者の価値観に対して寛容な気持ちを持つことが、大人と子どもの両方にとって良いと考えます。協調しよう、みんなを助けようと思えば、気を遣って自分を出せない子どももいますが、一人ひとり価値観が違うということを、先生も生徒も親も認識して、もっと寛容な心を持つとみんなが生きやすいのかなと思います。

市長

ありがとうございました。それでは小川委員お願いいたします。

小川委員

まずは資料を作成いただきありがとうございました。昨年は学校訪問で様々な現場を拝見しましたが、感じたことをまとめるというのはすごいなと思います。この資料中の実施状況や今後の方向性・課題については、私も同様に考えておりますので、教育現場

にこれを落とし込んで、進めていっていただけたらと感じました。

先程、資料の数値について話題になりましたけども、学校が楽しくて、給食が美味しくて、そして刈谷市を住みやすい街だと思う子どもが90%以上いるということがすごいです。これは市長が聞いたら泣いてしまうのではないかなというような結果であり、市長それから市役所の職員の方が、これはすごいぞと思っても良いと考えます。この結果から、市長におまかせして、益々教育環境を充実していただければと思ったのですが、科学的な思考の育成について、数学が好きだと思える児童生徒の割合がほぼ半数で、少し低いなという印象を持ちます。逆に数学が嫌いという生徒がどのくらいいるかについても気になりました。教育大綱を新しく検討していく上で、勉強に関しては「嫌い」を極力無くしていくような、嫌い科目・苦手科目の克服が大事なかなというふうに思います。標準学力テストの平均偏差値の数値もありましたが、正規分布の下の方をどうやって底上げしていくか、先生方にもより頑張っていただけたら、さらに良いのかなと思います。

最後にはなりますが、やはり一番感動したのは給食が好きだと思える児童生徒の割合が92%、刈谷が住みやすいと思える児童生徒の割合が97%という結果です。あとは学力向上も頑張っていきたいというのが感じたことでございます。

市長

ありがとうございました。それでは金原教育長お願いいたします。

金原教育長

毎年、市内全ての学校を訪問し、子どもたちの学習活動や遊ぶ様子、ほとんどの先生方の授業の様子、学校の施設等の環境を見てきました。今日はその状況を踏まえて、教育大綱の進捗状況を自分なりに捉えてお話しします。各施策の実施状況、課題や今後の方向性は、先ほどの教育総務課長の報告のとおりだと思っていますので、私は主に「育てたい子ども像～共に生き、未来を創造する子ども」に関わることについて、4点お話しします。

1点目は、今年度から、市内全ての小中学校・特別支援学校において、取り組んでいる「ありがとうがあふれる学校づくり」についてです。この取組は、現在の教育大綱が策定された令和3年頃から、本格的に行われるようになってきました。今では、「今日のキラキラさん」、「今日のありがとう」、「ありがとうの手紙」、「給食時のありがとう放送」、「ありがとう集会」、「思いやり掲示板」など、いろいろな機会を捉えて、子どもたちが互いの良さを認め合い、伝え合っています。「この取組によって、子どもたちの嬉しそうな表情、喜んでいる姿を多く見るできるようになりました。」と、学校からの声をいただいております。この取組が子どもたちの自己肯定感・有用感を高めることに繋がっており、教育大綱の育てたい子ども像の「共に生き」にもつながっていると、強く思っています。

2点目は、授業において、問題解決学習に力を入れていることです。子どもたちの

「自ら学ぶ力」を育てたいと、従来から問題解決学習に取り組んできました。そのために、魅力的な教材を工夫したり、開発したりする。例えば、地域教材の開発、専門家や講師による講義、キャラクターの登場など子どもたちの学習意欲を一気に高めるような工夫があります。また、友だちと意見交換・試行錯誤しながら、問題を解決していくストーリーもあります。さらに、タブレットを活用して、自他の考えを比較したり、授業の途中で子どもたちの考えをさらに深めるような教師の「二次発問」を大切にしたりしています。また、授業の終わりに子どもたちが自分の考えを整理する「振り返り」を行うことによって、次の授業へとつなげています。このように、子どもたちが、問題や課題に出会い、積極的に解決していくことは、教育大綱の育てたい子ども像の「未来を創造する」ことにつながっていくものと思います。

3点目は、子ども主体の活動に力を入れていることです。平成23年に生徒主体のいじめ防止の活動が始まってから14年が経ちます。各校において、子どもたちがいじめを無くすためには何ができるだろうと考え、みんなで取り組んできました。例えば「ありがとう たった五文字の 応援歌」という標語、笑顔プロジェクト、今までで一番うれしかったことを冊子にまとめた「ほっとストーリー」など、その取組が生徒会サミット等で紹介され、市内中学校だけでなく小学校へも広がってきました。この子ども主体の活動は、運動会、林間学校、修学旅行等の行事、各種委員会活動にも広がっています。さらに校則見直しプロジェクト、能登半島地震で被災された方々への義援金募集活動等も行われるなど、自ら一生懸命に活動に取り組む子どもたちの頼もしい姿を見ることができます。このように、子どもたちが自ら考え、自ら動く姿を見ると、教育大綱の育てたい子ども像の「共に生きること」と「未来を創造すること」の、原動力になっていくものと考えています。

4点目は、礎である地域の協力を大切にしているということです。教育大綱の中に、加藤与五郎博士の言葉が載っており、これは私の好きな言葉でもあります、「教育は多数の種の供給ではなく、むしろ、畑の肥沃化に重きをおくべきではあるまいか」という言葉です。刈谷では、従来からPTAやボランティア活動が盛んであり、学校の教育活動を支援していただいています。そこに3年前から、地域学校協働活動が始まり、今年度で全ての学校に導入されました。授業の補助、環境の整備、子どもとの交流、地域活動への参加と受入など、多くの成果が出ています。ここに、この活動の可能性を感じます。できることであれば不登校の子どもたちの相談相手としても協力いただけると、より子どもたちの居場所ができるのかなと思っております。これからもこの取組を進めていながら、地域とともに、子どもたちの学習環境の肥沃化に努めてまいりたいと考えております。

以上、4点お話ししました。今、教育大綱が策定されて4年目であり、各施策の見直しが必要だと思っています。しかし、育てたい子ども像につきましては、取組の成果がようやく見られるようになってきていますので、変えずに取り組むのもいいのではと思っています。

市長

委員の皆さんありがとうございます。皆様のご意見を頂戴いたしまして、全体的には大綱の中身そのものについて大きく変えるというよりも、成果を定量的に確認できれば更に良いものになるのではということでした。ただ、教育というのは、測り知れない部分も大きいため、できるだけということでご容赦いただければと思います。それと環境というのか、雰囲気作りというのか、のびのび育つというのか、言葉が難しいのですが、そういった側面が重要だというご意見も頂戴しましたし、DXというこれからの世の中に必要な技術の考え方も重要だなというように思います。

今日冒頭お話ししたように、本日お配りした資料は岡田武史氏のインタビュー記事の抜粋になるのですが、大変すごいなと思ったことは、縁もゆかりもない今治の地で、40億円のサッカー競技場を自身で資金を集めて建設されたことです。今では学校法人今治明德学園（FC今治高等学校里山校）の学園長をされているとのこと。どこまで正しいかわかりませんが、印象に残ったのは「ロールモデル（模範になる人物）がいない時代」、「エラーアンドラーン（失敗しながら学んでいく）の時代」だというような言葉でした。また岡田氏が作った言葉に、「遠い夢を追い、近く目標を見つめ、今できることに全力を尽くす」というものがあるようですが、素晴らしい成果を上げられた方のお言葉ということで皆様に少しご紹介させていただきました。

最後に私自身、最近特に感じていることをお話しいたします。この間、刈谷高等学校附属中学校が80名の定員に対して800人を超える募集があったということです。明和高等学校附属中学校はさらに高い競争率とのことですが、それは本当に本人の意思なのだろうかという点が気になります。本人の意思でチャレンジするということであれば非常に良いことですが、親御さんが子どもの行く道を決めて、狭めていくことがあります。ぎぎるのは、やっぱり良くないなという思いです。お子さんの気持ちをどのように大事にするかというのは学校側だけでなく、家庭の中でも非常に重要ではないかと考えております。家庭の中において、当然ある程度の幅はあって然るべきですが、あまり本人の意思を狭めない方が、子どもたちが自分の才能、行くべき道を自分で考えて、自分で判断をして、動ける人間になっていくような気がします。おおむね「こっちの方だよ」と、家庭で、あるいは学校でご指導いただき、あとはいかに本人の意思を引き出して、才能開花させてあげるかっていうのが必要になってきているというのが私の感想でございます。

来年度は教育大綱の策定となりまして、今回は第2次教育大綱や今後の教育大綱に求めることについて皆様にご意見をいただきました。来年度は策定の年であり、また皆様にはご意見を頂戴する機会を設けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

3 その他

令和7年度総合教育会議は3回開催予定（日時は決まり次第、別途連絡）